

北京大学日本研究中心 编



日本學

第十九輯



世界知識出版社

日 本 学

第十九辑

北京大学日本研究中心 编



世界·知識 出版社

责任编辑：张迎辉

特约编辑：叶琳林昶

装帧设计：林昶

责任出版：赵玥

图书在版编目(CIP)数据

日本学. 第19辑/北京大学日本研究中心编. —北京: 世界知识出版社, 2015. 6

ISBN 978-7-5012-4980-0

I. ①日… II. ①北… III. ①日本—研究—文集

IV. ①K313.07—53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2015)第 157313 号

日本学(第十九辑)

Ribenxue (Dishijiujì)

世界知识出版社出版发行

(北京市东城区干面胡同 51 号 邮政编码: 100010)

网址: <http://www.ishizhi.cn>

北京市兰翎印刷有限公司照排印刷 新华书店经销

850×1168 毫米 1/32 印张: 10.5 字数: 320 千字

2015 年 9 月第一版 2015 年 9 月第一次印刷

ISBN 978-7-5012-4980-0

定价: 38.00 元

版权所有 翻印必究

本辑出版承蒙卡乐 B 日本
研究基金管理委员会委员长
松尾康二先生资助

本辑编委会：李寒梅

宋成有

金 勋

白智立

梁云祥

执行主编：宋成有

前 言

《日本学》是北京大学日本研究中心编辑的学术论文集。它的宗旨是,对日本进行综合研究,探索其与他国不同的特点,尤其是在民族性格、历史传统和深层文化方面的特点。故命名为《日本学》。

研究日本学必须站在科学的立场上,全面观察日本,而不失之偏颇,才有助于人们深刻地了解日本,客观地评价日本。《日本学》采取这种态度。

一国的特点只有在与他国的比较中才能显现出来,而且,这种比较必须是多角度、多方面、多层次的。比较方法既可以采用人文、社会学的一些传统方法,也应该吸取自然科学、边缘科学的新鲜方法和现代化手段。《日本学》提倡并突出比较研究、学际研究,重视新方法、新手段的运用。

科学的态度就是实事求是。按照某种主观意图去剪裁甚至曲解事实,这种削足适履式地为现实服务的方法,是不足取的。提供确切的事实和对事实的正确解释,是学术发挥其社会效益的唯一正确途径。《日本学》坚持这一原则。

日本学的定义、内涵,乃至其能否构成一个学科,人们的意见未必一致。尽管如此,日本学已经成为国际学术界广泛研究的对象,并且积累了大量有价值的成果。应该积极吸取国内外各学派的日本研究成果,这是毫无疑问的。但是,不应照搬,不应人云亦云、做传声筒。历史证明,照搬、当传声筒只会扼杀创造性。《日本学》的目标是建立中国自己的日本学。

这是一个艰巨的任务，需要全国日本研究者的坚毅努力。《日本学》虽然主要反映北京大学日本研究中心取得的成果，但它并不是狭隘的同人出版物。《日本学》实行开放的方针，热忱欢迎国内外日本研究者在这块学术园地上发表论著，交流见解，展开争鸣。

北京大学日本研究中心

目 录

小野“遗失”国书考辨

——中日间最早的外交危机事件始末…………… 滕 军(1)

亲鸾的“恶人正机说”辨订…………… 刘丽娇(9)

明治维新思想溯源:江户时代的学说学派述论…………… 宋成有(30)

《海国图志》和刻本评析…………… 许美琪(57)

阿斯顿《早期日本历史》解读…………… 聂友军(85)

琉球久米村的风水思想研究…………… 李凤娟(95)

近代日本天皇制体制下的佛教改革

——明治后期新佛教运动探析…………… 梁明霞(108)

十年蹉跎教训多

——1931~1941年美国对日政策的演变及其反思

…………… 赵文莉(128)

“日本梦”的辉煌与失落…………… 金 勋(156)

非正式沟通渠道的确立与池田政权初期的对华外交(1961~1962年)

…………… 程 蕴(172)

中日邦交正常化与对日政党外交…………… 林晓光(184)

战后日本选举政治中的后援会研究…………… 朱清秀(213)

战后日本劳资关系从对决和冲突转向调和的原因

——相关研究的回顾和思考…………… 程多闻(226)

目标“零核电”:福岛核事故后日本核能政策解析…………… 王 蕾(236)

日本国家公务员制度改革

——透明、公正、有效…………… [日]西水彻(256)

从网络中介服务者侵权责任看日本网络侵权责任的启示意义

…………… 薛 杉(278)

主情主义思潮与上田秋成的文学创作

——以《吉备津之釜》为例…………… 岳远坤(293)

日本语教育与对外汉语教育对比研究

——以《新版中日交流标准日本语》和《新实用汉语课本》为中心

…………… 金英淑(310)

目次と要旨

小野妹子の国書「紛失」に関する考察

—中日間における初めての危機的外交事件の顛末—

..... 藤 軍(1)

要旨 中日の間には一千年以上もの往来史がある。もちろん友好的な往来が多かったものの、双方とも自国の国家利益から、関係の悪化や戦争に至る非友好的な外交上の危機も多発した。中国の隋の時代に起きた遣隋使小野妹子による国書紛失事件が正しくその一例であろう。国力の弱い日本の推古朝は平等外交を勝ち取るのため、自らを「日出づる処の天子」、「東の天皇」、対して隋朝の皇帝を「日没する処の天子」、「西の皇帝」と称した。これに対し、中国の統治者は当然反撃に訓令を発したが、日本は海を隔てている地理的条件を利用し、隋朝の発した外交辞令を放置していたが、こうした背景のなか起こった国書紛失事件について、『隋書』と『日本書紀』を参照しながら論じていく。

キーワード 隋書 日本書紀 小野妹子 日出づる処の天子 裴世清

親鸞「悪人正機説」に対する試論 劉 麗嬌(9)

要旨 本稿は主に、日本史学界が悪人正機を親鸞の核心的思想とする解釈に対して議論を展開する。まず、親鸞の核心的思想だと言われる悪人正機説の誕生と発展について分析を行い、その具体的内容の解明を図る。次にこの解釈に対する二つの反対意見について検討した。一つは悪人正機説を法然の首唱とし、また一つは親鸞の核心的思想は悪人正機説ではないとするものである。最後に、こうした基礎に基づき分析と総括を行った。本稿は、悪人正機説を親鸞の核心的思想とする捉え方は歴史の限界で誤解を招く可能性があり、親鸞本人が執筆した著作から親鸞の真の思想を探索すべきであると結論づけた。

キーワード 悪人正機説 悪人正因説 親鸞

明治維新の思想の根源を探る—江戸時代の学説・学派の分析—

..... 宋 成有(30)

要旨 1860~1880年代、明治政権は幕府体制の改革の下、立国方針、政治制度、経済体制、軍備、思想、文化、そして社会生活など多方面にわたる改革を推し進め、日本社会の歴史はこれにより一変した。明治維新成功の近因を明らかにするには、開国以来の日本の国内外情勢に関する分析が必要である。また、明治維新成功の遠因を探求するには、江戸時代の儒学、国学、蘭学、経世学などの学説学派に対して分析を行い、これらの学説学派が明治維新が起きるための思想的啓発、人材育成など土台を築いたことに着目する必要がある。本稿ではこれらの内容を中心とし、日本近代の思想家、思想界の評価に対して、明治維新を成功させた思想における遠因に対しさらに探求する。

キーワード 明治維新 江戸時代 日本儒学 国学 蘭学 経世学

『海国図志』和刻本分析 許 美琪(57)

要旨 『海国図志』は中国と、日本にとって重要な文献である。本論はまず『海国図志』の日本翻刻版について整理し、少なくとも25種類の刻本と1種類の写本が現存することを確認した。つぎに作者とその背景について調査を行い、幅広い知識人が翻刻事業に参加したことを発見した。そして、刻本の出版情報を分析し、この翻刻作業がある種の一過性のブームであったことに気づいた。また本論では訓点・片仮名・平仮名それぞれの文体を比較する。最後に『海国図志』の日本での流行について、その実態と歴史的意義を論じる。

キーワード 海国図志 和刻本 出版 文体

アストン『早期日本史』解説 聶 友軍(85)

要旨 日本で暮らしていたイギリス学者であるウィリアム・ジョージ・アストンが1882年に『早期日本史』という文章を発表した。中国と朝鮮の初期の歴史書の記載を参考に、日本の確かな史実の始発点を検討し、初期日本の史籍に存在する120年の誤差について論証して、「神功皇后の征韓」説について厳密な

考察を行った。その研究を契機として、当時の日本で暮らすイギリスとアメリカの学者たちの間で、方法論についての議論と思考が広がり、現存する資料に基づいて忠実に再現することと多数の証拠を併用することが史学研究としての共通認識となった。また、当時の日本学研究に比較的多く存在する一次元線歴史観の限界をも明らかにした。

キーワード ウィリアム・ジョージ・アストン 早期日本史 史実 神功皇后の征韓 一次元線歴史観

琉球久米村の風水思想研究 李 鳳娟(95)

要旨 風水は中国伝統文化の重要な構成要素であり、千年もの間変わらず発展し続け、今日においても中国人民の日常生活に深く根をはっている。明朝と琉球が正式な藩属関係を結んだ後、風水思想もまた両国間の頻繁な交流とともに琉球へと伝わり、人々の社会生活に大きな影響を与える琉球文化の一部となった。久米村は琉球に移住してきた「閩人三十六姓」の集団居住地であり、また中国文化が琉球に伝播する重要な本拠地である。村落構造、住宅や墓地等も豊かな風水思想を体現し、久米村では多くの風水師が現れ、風水思想の琉球における伝播と発展に大きく貢献した。

キーワード 久米村 風水思想 風水師

近代日本の天皇制体制下における仏教改革

一明治後期の新仏教運動に関する分析一 梁 明霞(108)

要旨 在宅居士団体である仏教清徒同志会によって始まった新仏教運動は明治中後期に起こった仏教改革運動の一つである。近代天皇国家が国家新道体制を確立し、キリスト教が徐々に法的に公認され発展していく壮大な背景の下、新仏教運動は国に対して法律により仏教主義、組織、僧侶と教会結社の仏教公認教運動を確立することを懇願し、政教分離を主張、また政治が宗教に対して保護や干渉を行うことに反対した。腐朽した伝統的仏教教団を糾弾すると同時に、新教徒運動は新仏教を打ち立て、新信仰を樹立し、近代日本仏教が徐々に間違った信仰からの解放、そして理性化を指標とした世俗化プロセスを辿ることを反映した。

キーワード 近代日本 仏教改革 新仏教運動 新仏教 新信仰

無為に過ぎた10年は多くの課題を残した

—1931～1941 年米国における対日政策の変遷と再考—

..... 趙 文莉(128)

要旨 1931年「九一八」事変(満州事変)が俄かに勃発すると、関東軍は速やかに中国東北部を占領し、「偽満洲国」を建国した。中国の領土主権は剝奪され、ワシントン会議において採択された『九カ国条約』は踏み躪られた。米国はこれに対し「不承認主義」の立場をとり、道義上の非難はあったものの具体的な制裁措置は施行されなかった。1937年「七七」事変(盧溝橋事件)が起ると、日本軍は全面的な侵略戦争を開始したが、米国は依然として日本を刺激しない政策を執る一方、対華援助と対日貿易を継続することで最大の利益を獲得した。その後日本は継続して戦争を拡大し、中国の腹部を侵略すると、インドネシアへ南下、ナチスドイツ及びファシストイタリアと同盟を結び、最終的に日米関係の悪化を招いた。米国は対日禁輸を強めると同時に、対日交渉の準備を着々と進める。結果、1940年11月に開始した民間ルートから1941年4月の政府正式ルート開通、そして太平洋戦争勃発まで、日米交渉は終始衝突を緩和できず、卻って日本が太平洋戦争を始動する火付け役となってしまった。これらの歴史の経験と教訓はきちんと総括し汲み取る価値がある。

キーワード 「九一八」事変(満州事変) 日米関係 南下政策 日米交渉 太平洋戦争

「ジャパニーズドリーム」の輝きと失望 金 勲(156)

要旨 日本は近代化へ邁進する中で「ジャパニーズドリーム」という表現を使ったことはないが、そのかわり「一億総中流」というスローガンをよく使った。「一億総中流」とは「国強民富」を目標とする日本民衆の期待に満ちた「夢」であった。本研究は日本が「一億総中流」という目標を提唱してから実現するまでの貴重な経験と教訓を考察し、「チャイナドリーム」実現のために有効な方策を打ち出すためにささやかな参考になれば幸いに思う。

キーワード 国強民富 一億総中流 収入倍增計画 下流社会

非公式ルートの確立と池田政権初期の対中外交(1961～1962)

..... 程 蘊(172)

要旨 1962年「LT貿易協定」の締結によって、岸政権以来、対立し続けてきた

日中関係は打開され、改めて国交正常化に向けて推し進められていった。この過程において池田政権は、自民党親中派を活用し、日中政府間に松村謙三をはじめとするインフォーマルな連絡ルートを確立させた。周知のように、この連絡ルートは日中関係の打開に重要な役割を果たした。しかし史料の不足により、この政府間の非公式ルートが確立された歴史的過程を詳しく検討したことはなかった。本稿では近年公開された日本外務省の一次史料を利用し、池田政権と自民党親中派の相互作用を考察し、非公式ルートの形成過程を究明する。

キーワード 池田勇人 日本外務省 自民党親中派 非公式ルート

中日国交正常化と対日政党外交 林 暁光(184)

要旨 2015 年は中日国交正常化 43 周年の年である。「不惑の年」に入る中日戦略的互惠関係の安定と発展の同時に、すぐには解決できないさまざまな構造的な矛盾が存在している。中日戦略的互惠関係の大局をいかに維持し、いかに理性的に処理するかは、少なくとも中日間の周知の矛盾を効果的にコントロールし、激化させないだけでなく中日戦略的互惠関係の大局に干渉したり打撃を与えないようにすることは、中日両国が真剣に考えなければならない問題である。前事を忘れず後事の師として、40 年前の中日国交正常化の困難をともなった過程を振り返り、その利害得失を反省し、同時に、当時、協議を重ね、激しい論争に至ったような主要な問題について、説明し、解説、反省することは、現在の中日関係の構造的問題を処理するに当たって、歴史的な思想の資源を提供することになる。

キーワード 中日関係 国交正常化 対日政策 政党外交

戦後日本の選挙制度における後援会の研究 朱 清秀(213)

要旨 戦後日本の選挙政治における後援会は、日本政治家にとって選挙に勝利するための重要な要素として広く運営されている。後援会は政治家が政治資金と票を集める「マシン」であるだけでなく、政治家と有権者を繋ぎ民意を政党に汲み上げるための重要な組織である。1994 年の政治改革は、後援会の選挙活動における影響力を弱体化できなかっただけでなく、逆に後援会の政治資金集金と集票機能を強化し、後援会を政治改革以後の日本政治において、依然として重要なファクターにした。

キーワード 後援会 政治改革 自民党 選挙制度

戦後日本の労使関係が対決と衝突から調和に向かった原因を探る

—関連研究の回顧と考察— 程 多聞(226)

要旨 1960 年前後、戦後日本の労使関係は対決と衝突から調和へと変化した。社会環境の変化によって、日本労使関係に対する各時代の世論、学術研究も、労資関係の変化が経済に与えた影響、労働者の地位と役割の評価及び協調型労資関係の実現などについての認識の差異によって、肯定派、反省派及び批判派などのこととなる観点が形成された。1945 年から 1975 年までの日本の労使関係の変化の過程とその体制について、多くの先行研究が企業内秩序の変化、労働運動の主導権の変化及び労働政策の変動、政党政治の転換などが、1960 年前後日本の労使関係が対決から調和に向かう道を歩むようになった原因であると結論付けている。

キーワード 戦後日本 労使関係 企業内秩序 労働運動 労働政策

「原発ゼロ」の目標：福島原発事故後の日本の核エネルギー政策に対する解析 王 蕾(236)

要旨 核エネルギー政策をどうなっていくのか、それが現代の日本社会における大きな争点となっている。2011 年福島原発事故後、日本国内の原発反対運動の動きが広まった。2012 年 9 月には、民主党政権が漸進的に原発を停止し、2030 年までに「原発ゼロ」を実現する決定を下したものの、民主党は同年末の衆議院選挙で惨敗し、政策の見通しが暗くなった。政権を回復した自民党の総裁安倍晋三は、民主党の「原発ゼロ」目標には「根拠がない」と宣言した。本稿では、日本のエネルギー状況、福島原発事故後の日本における原発反対運動、民主党政府の「原発ゼロ」政策の制定プロセスそして政策のフィジビリティ及び安倍内閣の核エネルギー政策等の多方面から、福島原発事故後の日本の核エネルギー政策を全面的に解析する。

キーワード 原発ゼロ 核エネルギー政策 福島原発事故 日本

日本の国家公務員制度改革—透明、公正、有効—

..... [日]西水 徹(256)

要旨 2014 年 5 月、日本政府は中央省庁の国家公務員制度、幹部人事を担う内閣人事局を新設した。この内閣人事局の新設により、日本政府にとって長年

にわたる懸案となっていた公務員制度改革に一区切りついたと言える。本稿では、これまでの日本の国家公務員制度改革の歴史を振り返り、改革の理念や方向性を確認するとともに、主な論点として以下の三点を挙げて現状と今後の課題を整理する。第一に、不祥事への対応である。1990年代以降、高級官僚に対する過剰な接待や、「天下り」が引き起こした様々な弊害が明らかになっていった。第二に、能力実績主義の実現である。採用試験の種別や年功序列を過度に重視した人事運用によって、給与や任用などに的確に反映されてこなかった。第三に、政府の人事管理機能の強化である。政治的な中立性を確保する観点から、日本の公務員の人事行政に関する機能は複数の機関に分散されてきた。このような制度は、公平性の観点からは優れているが、機動性、戦略性に欠け、また、セクショナリズムの原因にもなっていると指摘されてきた。

キーワード 日本国家公務員制度改革 人事管理 腐敗 公務員給与 内閣人事局

インターネットプロバイダによる権利侵害責任からみる日本のインターネット権利侵害責任の啓発的意義 …………… 薛 杉(278)

要旨 プロバイダの権利侵害問題は世界の各国政府と権利者にとって大きなチャレンジである。中国と日本はプロバイダに関する法律制度に関してはアメリカの影響を受けながら、実情によって自国の経済制度及び社会環境などを反映した制度を成立してきた。両国はこの問題においてまだ大きな争議があり、解決すべき問題も多いが、日本が立法上取り入れた職業自治、そしてインターネットの著作権保護における立法論と解釈論の厳格な区別、及びインターネットで個人の名誉権を保護しつつ言論の自由とのバランスを取ってきた経験には、中国が関連制度を完備するにあたり啓発的な意義がある。

キーワード プロバイダ 侵権責任 著作権 名誉権

主情主義思潮と上田秋成の文学創作

—『吉備津の釜』を例にして— …………… 岳 遠坤(293)

要旨 日本の江戸時代と中国の明代は、時代の特色上または文化上、切っても切れない関係がある。江戸時代に生み出された文芸様式のほぼ全てについて、中国明代にその原型を見つけることができる。明代末期の主情主義の人間性解放思潮が

日本江戸時代文学の創作に与えた影響はさらに大きい。上田秋成の『吉備津の釜』は、官吏の公式の言語である朱子学、そして嫉妬を抑えた論調で始まり、小説全体の抑圧された雰囲気を作っている。それによってヒロインである磯良のイメージの逆転に下地を作った。小説の前半部分では、神主の家に生まれた磯良のイメージはほぼ女訓の本が定める女徳の鏡、つまり淑徳であり、また神主の父と彼女の母親が表現する神道に対する信仰の薄さが、朱子学が説く道德思想がすでに民間社会に深く根付くほどの影響を生み出したことを体現している。そして、後半部分では、裏切りにあった磯良のイメージががらりと変わり、生霊と死霊を以って次々と残酷な復讐を行うシーンが、上田秋成の主情主義の思想を表現している。

キーワード 主情主義 朱子学 雨月物語 女訓 嫉妬

日本語教育と対外漢語教育の比較研究

—『中日交流標準日本語』と『新実用漢語課本』を中心に—

..... 金 英淑(310)

要旨 本稿は日本語教育と対外漢語教育の両領域において比較的大きな影響を持つ教材『中日交流標準日本語』と『新実用漢語課本』を比較の対象とし、それら初級段階の練習問題形式、練習項目、練習問題の量に対して、外国語教育の視覚から統計及び分析を行い、練習問題の作り方、編成の仕方及びその効果におけるいくつかの問題を指摘し、操作性のある効果的な改善方法を挙げ、これにより外国語教育の実践における具体的な問題の解決を導く。

キーワード 初級 総合課教材 練習量 練習問題形式 実践練習